



真ん中の3人は、3年間正平協で炊き出しスタッフにお世話になりました。ありがとうございました。
左側の初参加のデビュー組1年生とバトンタッチです。

炊きだし 10月12日(土)晴れ

9:00元寺小路教会に集合・準備。 12:00五橋公園 炊き出し 13:30 教会で反省会

公園にお出でになった方は48人でした。生徒は1年生4人と、今月も今回で参加がいったんは終了の3年生が3名参加し、1年生の先頭に立って働きました。というか、Wさん方に、息つく暇なくたくさんの仕事をいただきました。感謝。ポーツとしたところも多いわが部員ですが、働きだしたら、精魂こめて頑張る人たちです。公園での炊き出しは、とてもいい雰囲気でした。衣類提供では、これから寒くなるので、できるだけ暖かいものを勧めました。スタッフも外国人ボランティアの皆さんも、また生徒たちも本当によくテキパキと働いていました。



記録、分担計画等、さっそくてんやわんや…ヨロシイ。



恒例のおむすびとの格闘 ! 初挑戦の1年生も。

○最後の炊き出し活動だったので、一つ一つの仕事を「これが最後だ」と意識しながらこなすようにして務めました。卒業後も参加したいと言ったら喜んでくださったので、ぜひまた参加させていただこうと思った。残りの募金活動も頑張りたいと思う。(高3年)



さすがに手慣れてる……かな？



イヤ、こっちの方が、手慣れてる……ね。

○今回は私たち3年生にとって最後の炊き出しだったので、調理や荷物運びなど周りの仕事を手伝い、最後の最後まで皆さんのお役に立てて本当によかったなと思いました。(高3年)

○今回私は初めて炊き出しボランティアに参加しました。だから慣れていなかったのですが、手伝いの方に教えてもらいながらできたのでよかったです。自分から進んで取り組んでいた3年生を見て、自分もそのようになりたいと思いました。(高1年)



マア、1年生たちは、外国人ボラの皆さんと、ちゃっかり収まっていた。

○今回は2回目の活動だったので、前よりはスムーズにできたと思います。それと、みんなで協力してできていたと思うので、よかったです。今回は豚汁の係で、ホームレスの方に手渡ししましたが、「ありがとう」など言ってくれる方もいて嬉しかったです。反省点は、今回は前回と集合場所が違ったため道に迷ってしまいましたが、次は場所をきちんと確認しておこうと思います。(高1年)

○2回目の参加でした。自分なりに前回よりもスムーズに動けたと思います。ボランティアに来ていた方たちに積極的に声をかけあい、行動できたと思います。(高1)



3年生の代表がスタッフの皆さんへ、用意してきたお礼状を読み上げているところです。Wさん、目を閉じておられます。
そのお礼状のコピーとWさんのコメントが顧問宅へ送られてきましたので、紹介します。

「炊き出しボランティアの皆様

私たち3年生の炊き出しへの参加は今日をもって最後となりました。3年間、少ない回数ではありましたが、いろいろな経験をさせていただきました。最初にボランティアに参加させていただいて驚いたことは、仙台にもホームレスの方がたくさんいたことです。と同時に、社会がすごく厳しいと事実を知らされた瞬間でもありました。

私はホームレスの方々に会うのに恐いと思ったことはありませんが、私のチームのメンバーの中には恐いと思っていた人もいたかもしれません。ただ、私はホームレスの方とどうやって接すればいいのか分かりませんでした。が、後から感じたことですが、ホームレスの方と私たちとは違うと思っていたからではないかと気づき、それではいけないと思いました。すべての人間は平等なのだと思えるようになったのです。それは学校の授業やボランティアを通して知ることができました。いろいろな経験をし、身をもって体験させていただき、私たちは成長することができました。

私たちは高校を卒業いたしますが、これからもボランティアに参加していきたいと思います。どこかでお会いできましたらまたご指導のほどよろしく願います。今までお世話になりました。ありがとうございました。

D 学院高校 ボランティア同好会 3年副部長 」

(Wさんより)

「今回の炊き出しでも生徒の皆さんにたいへん助けていただきました。ありがとうございます。

○先生(もう一人の顧問)にもお世話になりました。(高橋は学校行事で不参加)

3年生の3人組は、今回が最後のボランティアだから思い出に残るようにと、最初から全力投球でした。

副部長の○○さんは3年間お世話になったお礼にと、自分の小遣いで買った洋菓子を反省会に差し入れてくださいました。えらいですねえ。感激しました。

手紙は反省会で読み上げていただき、みんなで泣きました。

1年生のみなさんにもよい体験になったのではないかと思います。

寒くなってきたので、どうぞご自愛ください。

感謝のうちに

10月12日 / W 拝 」

ことばを引き出す力が体験の中にあり、その機会を与えてくださる正平協に、感謝のことばが尽くせません。これからもお世話になります。ご迷惑おかけすることも多く、申し訳なく、ですが、よろしく願います。

献品： 今月小学校保護者より冬に向けての衣類やお米をお預かりしました。ありがとうございました。

HSさん日記

9月15日(日)

AM 8:20小雨。台風近し。前日の炊き出しに来なかったのが気がかりで寄った。家内におむすびと麦茶を用意してもらい、持参した。不気味な大ネコが自分のそばを警戒もせず平気で通った。「Sさん」3回呼んだが、返事がこない。シートを持ち上げて、覗き込んだ。毛の薄い頭が見えた。じっと動かない。瞬間気持ちが凍った。モシカシテ…、立ち合うことに？…マズ誰へ連絡？その前にちゃんと確認を…。頭の中がぐるぐる回った。—その時Sさんの頭が動いた。…生きていた。こちらを見上げて、手を振った。声は発しない。『おむすびいらない。来ないで。心配いらない。』おむすびを入れた袋を戻してよこした。それが、無表情な拒否の顔。つい数日前の夜回り時のニコニコ顔からの変化に、ショックを受けた。「具合悪いのですか？炊き出し来ないから心配しました。また来ますね。」これほど拒否されたのは初めて。何かあった？何があった？また人が信じられないことが？64歳のSさんに無慈悲なことが、何か。

PM 4:30 仕事帰り。おむすびセット持参。ただ置いて帰ろうと決心して行った。行く度ごとにニコニコしていた時に、これからどうしたいかを、聞いておくんだった、と思う。公園はドラ猫のやま。「Sさん」やっぱり呼んでしまう。寝ている入口を塞いでいる布が開門した。奥から、怯えたような、無視するような目が、じっとこちらを見た。「Sさん。おじさん。具合悪い？医者呼ぶ？」黙って首を横に振った。Sさんのこんな目を見たことがなかった。「おむすびをもらってくれる？」はじめて頷いた。「また来ますね。」少なくとも、気まぐれで付き合っているのとは違う。今度、どうしたいか、痛くないか、聞いてみようと思った。公園の道路をノラが何匹も闊歩している。えさを手にした中年の婦人が道路にしゃがみ込んだ。肥った猫がその周りを甘えてスリ添うように回った。こんなにいたか。数えて、8匹。どこからともなく集まってくる。共通するのは、肥ったオス猫ということ。

9月16日(月)家内に使いすて容器にSさんの分のお弁当も作ってもらった。朝から時折激しい雨。さすがに猫は見あたらず。麦茶のペットボトルが空になって外に置いてあった。飲んだんだ。ホッとして嬉しくなる。「Sさん。台風来ますからね。」「ハイ」声が返ってきた。少し戻ったかな。今度元気に話せる時に、これからどうしたいか聞いてみよう、と思った。

9月20日(金)PM 5:30 Sさんの住まいである大きな石碑正面に年配の婦人が腰かけていて、名前を呼びながらノラたちに餌づけをしていた。道路側ではご主人の男性が3匹にエサやりしていた。ノラたちは、ご主人にことかかない。「Sさん」ハイハイ、大丈夫。やっと笑顔が戻ってきた。今度聞こう、と思った。猫のそばには、同じエサを狙ったカラスがすぐそばまで、次々に舞い降りてきた。ホラーの世界を思った。

9月21日(土)AM 7:40 自分の仕事の都合もあり、まだ早いですが、弁当をもって、寄った。「Sさん、寝てますか？」2~3度くり返した。その時Sさんが半身起きて、「寝ていちゃダメなの？」と、怒り顔と声でくり返した。あつけにとられて、黙って聞いた。「食べるものあるから。もういいから。」「炊き出し行かないから。来ないで。」持って行った弁当とお茶を投げ返された。それは地面に落ちた。しばらくジッとSさんを見つめてから、スママセンでした、と言って落ちたものを拾い、そこを出た。…しつこい、と思われるだけになってしまったか。しばらく何も考えられなかった。泣きたいと思った。しかし涙が出ない。ショックだった。しかし、Sさんはもっと苦しいにちがいない。何も分かっていないのは、自分だった。やはり、炊き出しに行きたくない何かはまだあったにちがいない、と想像した。しかしそれを聞く前に、また、これからのことも聞く前に、自分勝手にうぬぼれて信頼をもってもらっていると思い込んでいた自分に、またたとえ少しはそれがあったとしても、自らしつこくして壊してしまったことに、つまり自分に腹立たしかった。こうしたのは自分なので、しばらくは行けない。数日して落ち着いてから、WさんとHさんに、ことの経過と状況を報告し、お願いした。